

大山町議会議長 野口 俊明 様

大山町議会議員 吉原 美智恵



平成 28 年大山町議会議員研修報告書

1	日 時	平成 28 年 10 月 6 日 (木) ~7 日 (金)	
2	研修地	滋賀県大津市 全国市町村国際文化研修所	
3	研修内容	(内 容)	(場 所)
		(1) 住民自治と観光戦略	滋賀県大津市
		(2) 町村エリアにおける今後の観光の課題と可能性について	
(3) 地域創生 成功の行程式はあるのか?			
4	研修結果 又は概要 (意見・感想)	<p>I 「住民自治と観光戦略」 北海道ニセコ町長 片山健也氏</p> <p>1. 自治体の過去 公務員社会=前例主義、縦割り主義、高度な福祉社会</p> <p>2. 情報共有への取り組み</p> <ul style="list-style-type: none">・内部開議の公開⇒予算審議の公開、管理職会議の公開・住民による白紙からの議論=道の駅実現・まちづくり町民講座 (1995 年~)・わかりやすい予算説明書を全町民へ配布・職員研修の拡充=首長の補助機関ではなく町民のため <p>3. まちづくり基本条例制定(2000 年)</p> <ul style="list-style-type: none">・これまでの実践を条例化⇒育てる条例 <p>II ニセコ町の観光</p> <p>1. ニセコ観光の危機</p> <ul style="list-style-type: none">・首長によるトップセールス・海外への独自 PR・観光への危機⇒観光協会の変革 全国で初めての(株)ニセコリゾート観光協会 誕生 住民 1 株 5000 円、町 1 千万円投資 <p>2. 住民の力による取り組み</p> <ul style="list-style-type: none">・スキーブームからペンションブームへ・カヌー、ラフティングなどのアウトドアブーム・適正な規制 (環境基本条例、景観条例、準都市計画) <p>↓ 住民参加による乱開発の防止</p>	

3. 国際リゾート地としての質を高める

- ・外国人の職員採用、国際交流員の活躍
- ・国等の指定⇒国営農地整備、ワイン特区、環境モデル都市
プラチナシティ、ニセコ観光園

総括

ニセコ町長の信念と行動力、町民・行政・議会との信頼関係の構築が“まち”を動かす原動力であると確信した。

特に、まちづくり町民講座を平成8～27年の間に148回も行い、住民への説明責任、住民の意識改革をははかり、町全体でインバウンド観光にも成功していることは、大山町でも大いに参考すべきと考える。

II 「町民エリアにおける今後の観光の課題と可能性について」

じゃらんリサーチセンター長 沢登次彦氏

1. 「じゃらん 宿泊旅行調査 2016」について

- ・日本全国で行われている観光宿泊旅行の動向を調べるための経年調査

(1) 旅行実施率と平均旅行回数

宿泊実施率は微減、旅行回数は増加

(2) この1年間旅行に行かなかった理由

- 1位 なんとなく
- 2位 お金
- 3位 興味がなかった

(3) 宿泊旅行の目的

- 1位 地元のおいしいもの
- 2位 温泉や露天風呂
- 3位 宿でのんびり

総括

観光客の動向をリサーチすることは重要なことである。

新しい傾向としては、一人旅が増えているということで、SNSの普及も後押ししている可能性もある。

インバウンドも増加傾向ということもあり、大山町としても傾向と対策は重要であると考えます。

研修結果

又は概要

(意見・感想)

4

Ⅲ 地域創生 成功の方程式はあるのか？

東京農業大学教授 木村俊昭氏

1. 機会創出は誰がする？

- (1) 住民との対話重視—まず広聴し、幅広く意見を聴く
人は自ら知り気づかないと行動に移さない
- (2) まちづくりの基本
全体最適、価値共創、住民満足、費用対効果、循環型社会重視の思考
 - ・産業、歴史、文化を掘り起し、研ぎ、地場から世界へ発信
 - ・未来を担う子どもたちを地域が一体となって愛着新を持つよう育むひとづくり
- (3) わがまち白書（マップ）の作成
 - ・細やかにまちを観る
 - ・まちを歩いてみる—現場、見える化
 - ・まちで聞いてみる—広聴
 - ・歴史的背景、風土、産業軸

総括

行政職員、議員ともに自分の仕事を通じて、住民の皆さんのために何か改善できることはないか考えることが重要である。

まず、わがまちと人を徹底的に知り、自ら知り、気づき行動することが最重要であると実感した。

役場とは、「町民の役に立つ場」という言葉も心に残った。

4 研修結果
又は概要
(意見・感想)

